

スパイス王国ザンジバル

ここ数年、タンザニア国で実施されている全国灌漑マスタープラン調査に調査団員として参加し、活動の一環として数度に渡りザンジバルを訪れる機会を得た。中近東地域での経験が長かった私にとって、ダウ船での交易によって古い時代からアラブ地域と交流のあったザンジバルを訪問する事は長年の夢であった。ザンジバルは主にウングジャ島とペンバ島という二つの島から成り、ウングジャ島の西に突き出した半島にはストーン・タウンと呼ばれる中心地があり、アラブ風の古い家が軒を連ねている。入り組んだ町並みに足を踏み入ると、オマーンやイエメンのスークを歩いているような錯覚に陥るほどである。また、スワヒリ語はもともとアラビア語の影響を強く受けているが、本土に比べてザンジバルでは特にアラビア語を身近に感じた。

ザンジバルといえば昔から各種スパイスの生産地として有名で、特にクローブの輸出は長い間ザンジバルの経済を支えてきた。しかしながら、世界市場における競合や植物体の老齢化あるいは病害虫による影響等が原因となって、クローブの生産は急速に衰退しつつある。さらに、島内の人口増加は限られた土地資源の劣化に拍車をかけ、表土の流出と集水域の乾燥化もクローブを含めた永年作物の生産に悪影響を与えている。こうした状況下でザンジバル政府は 1991 年以降、クローブに代わる新しい換金作物を模索しているものの、これまでのところ適当な作物は見つかっていない。

一方、ザンジバルは青い海、白い珊瑚礁と豊かな緑に恵まれ、島内にはアラブ支配者の宮殿跡や奴隷貿易時代の旧跡が散在しており、これらは重要な観光資源となっている。観光客むけにスパイス・ツアーが準備されており、各種のスパイスが育っている姿を見学できる。私が参加したツアーでは、数時間の見学で 30 種類以上のスパイスや果樹を観察する事が出来た。農園では、クローブ、シナモン、ナツメグといった木本類に加えて、カルダモン、アニス、ターメリックといった一般的な香辛料あるいはドリアンやジャックフルーツといった果樹も生産されている。

今後のザンジバルにおける農業あるいは地域開発の方向性として、観光開発との融合が重要な課題になると考えられる。クローブに代わる換金作物を輸出するのではなく、スパイス王国としての歴史的な価値をより有効に活用すべきだと思う。また、ホテルやレストランへの生鮮野菜の周年供給は観光開発にとって大切な筈である。そのためには農家に対するインプット支援と産直を結びつけた活動も考えられる。現在実施中の灌漑マスタープランでも、こうした農業及び観光開発の融合における灌漑開発の果たす重要な役割を強調した。観光と農業の調和のとれた開発をすることによって、スパイス王国としての景観を維持しつつ、ザンジバルに住む人々の生活が少しでも改善されていくことを心から祈りたい。

(ザンジバルにて:大沼)



クローブ



シナモン



ナツメグ



カルダモン



アニス



ターメリック